

伊丹福音ルーテル教会 顕現後第四主日礼拝のしおり

2023 年 1 月 29 日

前奏

招きのことば：詩編 40 編 7-12 節

あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず 焼き尽くす供え物も 罪の代償の供え物も求めず
ただ、わたしの耳を開いてくださいました。そこでわたしは申します。

御覧ください、わたしは来ております。わたしのことは 巻物に記されております。

わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み あなたの教えを胸に刻み 大いなる集会で正しく
良い知らせを伝え 決して唇を閉じません。主よ、あなたはそれをご存じです。

恵みの御業を心に秘めておくことなく 大いなる集会であなたの真実と救いを語り

慈しみとまことを隠さずに語りました。主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく

慈しみとまことによって いつもわたしをお守りください。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありませ
ん。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の
御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリスト
によって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエ
ス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をと
りつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、
聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

自分の心には温もりや愛がないと感じるとき、私たちは神様に「どうぞ私たちの心を神様の愛でゆたかに満たしてください」と祈り求めることができます。人々の間に正義が見られないとき、絶望しないで神様に祈り求めることができます。父なる神様、どうぞ私たち、罪赦された者が率先して、人びとの間に、また神様と人々の間に平安を作り出す人、平和を実現する人とならせてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コリント人への第一手紙 1 章 18-31 節

十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。それは、こう書いてあるからです。「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、／賢い者の賢さを意味のないものにする。」知恵のある人はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神は世の知恵を愚かなものにされたではないか。世は自分の知恵で神を知ることができませんでした。それは神の知恵にかなっていません。そこで神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになったのです。ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、わたしたちは、十字架につけられたキリストを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです。神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いからです。兄弟たち、あなたがたが召されたときのことを、思い起こしてみなさい。人間的に見て知恵のある者が多かったわけではなく、能力のある者や、家柄のよい者が多かったわけでもありません。ところが、神は知恵ある者に恥をかかせるため、世の無学な者を選び、力ある者に恥をかかせるため、世の無力な者を選びました。また、神は地位のある者を無力な者とするため、世の無に等しい者、身分の卑しい者や見下げられている者を選ばれたのです。それは、だれ一人、神の前で誇ることがないようにするためです。神によってあなたがたはキリスト・イエスに結ばれ、このキリストは、わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられたのです。「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりになるためです。

福音書朗読：マタイによる福音書 5 章 1-12 節

イエスはこの群衆を見て、山に登られた。腰を下ろされると、弟子たちが近くに寄って来た。そこで、イエスは口を開き、教えられた。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。

柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。

義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。

憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。

心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。

平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。

義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

わたしのためにののしられ、迫害され、身に覚えのないことであらゆる悪口を浴びせられる

とき、あなたがたは幸いである。喜びなさい。大いに喜びなさい。天には大きな報いがある。

あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

讃美歌 501 番

1 生命の御言葉 たえにくすし、見えざる御神の むねをしめし、仕えまつる道を教う

※生命の御言葉 たえなるかな、いのちの御言葉 くすしかな

2 主イエスの御言葉 いと慕わし、普く響きて 世の巷に 悩む子らを 天(あめ)に招く ※

3 嬉しき訪れ たえず聞こえ、赦しと和らぎ たまう神の 深き恵み 世に現る ※ アーメン

説教：「心の貧しい人々は幸いである」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

すべての人は幸せを求めていますね。家族がみんな元気で仲が良いこと、生活に将来の心配がないこと、仕事がうまくいっている幸せ、世界が平和であることなど、普通に考えると幸せとは、豊かさや成功、平和や勝利などを連想します。しかし、イエス様が山の上で集まってきた人々にお話をした説教は不思議な出だしです。心の貧しい人々は幸いです、とイエス様はおっしゃいました。心が貧しい、ということは不幸なことではないのでしょうか。続いて、悲しむ人は幸いです、言われました。悲しんでいる人はほんとうに幸いですでしょうか。イエス様は何をおっしゃりたかったのでしょうか。

イエス様は山の上で長いお話をされました。マタイの福音書では5章から7章にわたって記されています。山上の垂訓とよばれることもあります。そしてそのお話の始めがこの幸せのお話です。ここでイエス様は八つの幸せを述べておられます。

心の貧しい人々は幸いです、天の国を受け継ぎます、と言われました。それは、心が豊かであると天の国を受け継ぐことができない、ということでしょうか。そうではありません。それは

神様の恵みに対して私は貧しい者である、と言う自覚です。人が作り出すことができる豊かさでは心が満足できなくて、神様の恵みに対して飢え乾くほど自分は貧しいと思っているということです。もっと神様の恵みで満たされたい、と願っている人です。イエス様はあなたの罪を赦し、新しいいのちを与えるために来てくださいました。これがイエス様しか与えることのできない恵みです。

もし今、皆さんがこの世の与える幸せに満ち満ちているなら、おめでとうございませう、それは神様の祝福をいただいているということです。また、自分の才能を生かして努力を重ね、願っている幸せを得ている人も、おめでとうございませう、それは神様があなたの道を整えて、あらゆる誘惑から守ってくださったからです。しかしそうだとすると、神様からあなたの罪が赦されていなかったらどうでしょうか。世は移り変わります。罪の赦しの確信がないと、自分の土台が揺るがされないかと、いつも心に深い不安が残ります。最終的な満足を得られず、妥協的な不満足が続きます。神様からの赦しがないからです。罪の赦しはイエス様を通してだけ、それも誰にでも、努力によらないで無代償で与えられます。

ですから、心が貧しい人は神様にこのように祈ります。どうぞ自分中心でわがままな私を、イエス様によって赦してください。神様はイエス様によって、そのままのあなたを豊かに赦します。そしてあなたに新しいいのちを与え、あなたを作り変えてくださいませう。天の国を受け継ぐのです。このように、罪赦されて神の子とされて天の御国を受け継ぐと、そこに生きる確信が与えられます。天の御国を受け継ぐことが人生の土台となったら、人生を見る目も、人を見る目も、将来を見る目も新しくされます。八つの幸いの後半には、天の御国を受け継ぐ人がどのようにこの新しい命を生きて、幸いな生涯を送るのかが語られています。今日ご一緒に祈りましょう。主イエス様、私はこのままではだめです、どうぞわたしをあなたの恵みによってあわれんでください。あなたは私のために十字架で苦しんでいのちを与えてくださいました。私は自分中心でわがままな者ですが、この私をそのまま赦してくださいませう。あなたの恵みをいただきたいのです。私を赦し、私を強め、あなたの栄光のために生きる者と変えてください。このように祈る人々が心の貧しい人々です。

悲しむ人々とは心の貧しい人々と同じように、今の状態で幸せであるとは思わないで、神様のみ、慰めや喜びを期待する人々です。悲しみを癒してくださるのはイエス様だけだからです。人々のことばや行いに傷つき、人びとの視線によっていたたまれないほど傷ついて悲しむとき、また、自分のふがいなさに失望して倒れるとき、さらに、事故や災難に見舞われて自分ではどうしようもないとき、その悲しみを癒し、慰めることができるのはイエス様だけです。父なる神様はあなたを大切にしてくださって、優しく、そして逞しく導いてくださると、天のお父さまに全幅の信頼を置くことの確信は、イエス様によってのみ与えられます。イエス様は今日、あなたは悲しんでおられませんか、とお尋ねになっています。悲しんでいる人は、イエス様によって慰められます。だから幸いです。

柔和な人々は、神様の恵みをそのまま受け取る人々です。罪の赦しをそのまま受け取ります。神様の子どもとされ、平安をいただきます。すべての罪を赦していただき、すべてを治めておられる神様をお父さんと呼ぶ平安です。ですから、つい陥りやすい取り越し苦労や過ぎ越し苦労から解放されて、その日その日に自分に託された使命に心を込めて打ち込むことができます。知恵が足りないとき、祈れば神様の助けがあります。人々の役に立つために今一つやる気や力がでないとき、柔和な心で神様の恵みを受け取ると強められます。あなたでなければ果たすことができない役割を、神様からの恵みに強められ励まされて、苦労しながらでも誠実に取り組みます。中途半端にではなく、力の限り愛を持って果たしていくのです。柔和な人はこのようにして地を受け継ぐと言われています。

イエス様は次に、義に飢え乾く人々が幸いです、と言われました。義に飢え乾く、というのはどういうことでしょうか。二つの意味があります。私たちが神様から与えていただく義と、世の中にあるべき義の二つです。イエス様による罪の赦しが、私たちを神様の御前で義なる者、正しい者とします。神様が御名によって赦す、とおっしゃれば、それは本当の赦しだからです。神様からいただく義に飢え乾いている人の心は、心の貧しい人と同じ心です。

けれども神様からの義をいただくと、世の中に正しさがいないこと、つまり義がないことを憂う心が与えられます。世の人びとは神様の義を知らないのです。それは、世の人々が義をつくろうと努力をしていないということではありません。多くの人は自分では正しく歩まなければならないと思っています。しかし、世の悪い慣例を打ち破ることはひとりの力ではなかなか難しく、残念ながら悪いとわかっていても妥協せざるを得なかったり、本当は正しくないことなのに見て見ぬふりをしなければならぬ事情に追い込まれます。そんなとき私たちは義に飢え乾くのです。世にはびこっている不義を見て絶望しても、神様からの義をいただいた私たちは、神様にだけはいつも何かを期待できると信じます。イエス様は、義に飢え乾く人々は満たされます、と言われました。神様から義と認めていただいた私たちは、不義のはびこる世にあっても、神様にある希望に満たされます。

第五番目の幸いは、隣み深い人々の幸いです。イエス様はその人たちは隣みを受けると言われました。隣み深い人とは、隣人のかかえる問題や隣人の必要としていることに目をとめる人です。自分の考えや主張が通ることだけを考えていては隣み深くあることはできません。自分が出し抜かれたり、損をしないように、といつも自分を守る気持ちが働いて、恐れと不安と悔しさと劣等感に押しつぶされそうになりながら生きてみると、隣人の心や生活の必要に目を留める余裕がありません。神様の恵みを無代価でいただいて喜びを抱くと心の余裕が生まれます。それで隣人の必要に目をとめます。そして役立つことができます。イエス様は「受けるよりも与えることが幸いです」と別の形でこの幸いをお話しくくださったことがあります。その人たちは隣みを受けます。

心の清い人は幸いです。この曲がった世の中にあっても、純粹に神様を見上げ、神様からの澄み切った罪の赦しをいただき、心はすがすがしい思いで満たされます。そのようにして、神様を見て歩むことができます。

平和を実現する人々は幸いです。この曲がった時代にあって、人々の戦いはあとを絶ちません。戦うことで生き延びようとしします。自分を守るため、これまでの被害損失を取り戻すため、単に相手が気に入らないから、など、いろいろな理由で戦います。平和を実現する人は、自分が損をすることがわかっていてもまず相手を赦します。そして、私たちは神様に赦されてはじめて人を赦すことができます。平和を実現する人は覚悟が必要です。自分の安全を確保して戦う人々の外から関わるのではなく、必要であつたらその中に巻き込まれながら、しかし賢く愛を持って双方に働きかける覚悟です。そのような人々は神の子と呼ばれます。

八つの幸いを教えてくださったイエス様は最後に、義のために迫害をされている人々は幸いです、と言われました。イエス様は罪深い世に来てくださって私たちの一人となり、そして間違った人びとによって十字架にかけられて命を奪われました。それは自分を十字架にかけたその人々を、神様の前で赦すためでした。その罪をすべてその身に担って死の裁きを代わりに受けてくださったのです。私たちの義のために迫害を受けてくださいました。私たちも自分中心でわがままです。心から神様を締め出そうとします。心の貧しい人々はそのイエス様によって、罪を赦されて、神様の大切な子どもとして受け入れられ、天の国が与えられます。新しい命を与えられたら、イエス様に信頼して従っていく私たちも神様の義のために迫害を受けるでしょう。神様の義を理解しないこの曲がった世の中にあって、私たちも人々から理解されないで、イエス様と同じように義のために迫害されるでしょう。義のために迫害される人びとには天の国が与えられます。

山の上で、イエス様は弟子たちに大切なことを教えられました。イエス様は具体的に病気で苦しんでいる人々を助け、悪霊に取りつかれた人たちを癒されましたが、このように、集まってきた人々によく教えてくださる毎日でした。私たちも今日、心の貧しいものですから、イエス様の罪の赦しと新しいいのちの恵みを受け取りましょう。そして、世にあって与えられている役割に心を込めて打ち込みつつ、具体的に隣人を赦し、世の平和を望み、必要であれば犠牲や迫害を覚悟して、神様のお遣わし下さるところで人々とともに幸せをつくっていきましょう。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである」マタイによる福音書 5 章 3 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

讃美歌 511 番 献金 献金感謝の祈り

1 み赦し あらずば 滅ぶべき この身 わが主よ、憐み救いたまえ

※イエスキミよ、このままに 我をこのままに 救いたまえ

2 罪のみ 積もりて いさおは なけれど なお主の血により 救いたまえ ※

3 み恵み 受くべき 身にし あらねども ただ御名のために 救いたまえ ※

4 みわざを 世になす 力あるものと わが身も心も ならせたまえ ※ アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たさせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏